

地質ニュース

昭和45年1月 第185号 1970

解説	沖縄の家庭燃料事情と天然ガス	福田 理	1
トピックス	IMA-IAGOD Meetings '70のお知らせ	砂川 一郎	12
	第10回国際粘土会議	藤井 紀之	16
	アブダビ石油1号井自噴す	星野 一男	46
	顕微鏡下の岩石③ 古生層の砂岩	角片 靖夫 田井 正義	13
	古気候はどのように変わったか	徳永 重元	20
	水銀の話⑨	岸本文 男	26
海外事情	米国の海洋地質について	坊城 俊厚	34
	エクアドル国 トアチ河地帯における地震探査	市川 金徳	49
	学会掲示板		45

編集 地質調査所

表紙の写真

和田標本(和田維四郎氏蒐集) 三菱鉱業K. K. 中央研究所
高 標本(高辻吉氏蒐集) 九大理学部
若林標本(若林弥一郎氏蒐集) 東大総合資料館
桜井標本(桜井欽一氏蒐集) 桜井標本館

今月から紹介する標本の写真は 上の4つの著名コレクションの中からえらびだしたものである。

1) 水晶の日本式双晶(和田標本) 山梨県乙女鉱山

水晶の双晶には色々な種類があるが、その中で(1122)面を双晶面とした接触双晶(軸が互に84°33'でまじわる)は、日本産の結晶ではじめてみいだされたもので、日本式双晶と呼ばれている。今では世界の各地で産出しているが、昔、山梨県乙女鉱山や倉沢 向山で産出したものは、他に類例をみないほどの大型の結晶で世界的に有名である。和田標本の中にはたくさん大型標本があるが、写真はむしろ中型の標本である。

日本式双晶の特徴は、写真でみられるように、一緒に産出する単結晶よりもはるかに大型に発達していること、単結晶が六方柱状であるのに対して、双晶では平板状の外形をとることの2点である。これは2つの結晶が交る凹入角のところに優先的に分子が集まり急速な結晶成長を行なうためにできた形態的な特徴である。日本式双晶の中にもたくさんタイプがあり、普通それぞれの個体自身の中でブラジル式やドフィーネ式の双晶をしている。(文 砂川一郎 写真 正井義郎)

日本の鉱物標本

今年は8月24～9月6日の間 IMA-IAGOD Meetings '70(国際鉱物学連合と国際鉱床学連合の総会)が開かれるので、それを記念して日本に産する特徴的な鉱物の写真を表紙で紹介することにしたい。わが国のすぐれた標本はたいてい個人が収集したもので、残念ながら一ヵ所にまとめられていない。各地に散在している標本のうちでも、とくにすぐれたコレクションには、次のようなものがある。

発行 株式会社 実業公報社